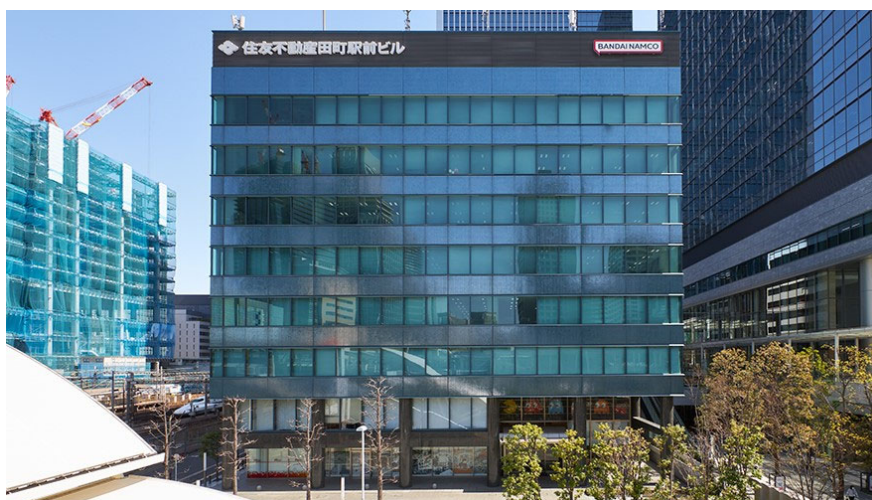


## バンダイナムコアミューズメント本社の電力を再生可能エネルギーへ転換 バンダイナムコグループ初の「CO2排出量実質ゼロ」オフィスがスタート

株式会社バンダイナムコアミューズメント(本社：東京都港区／社長：川崎寛)は、2022年3月23日より本社ビル(住友不動産田町駅前ビル)で使用する電力の全量を実質的に再生可能エネルギー由来の電力に切り替え、オフィス業務で発生するCO2排出量を実質ゼロにいたしました。



現在、バンダイナムコアミューズメント本社ビルには、アミューズメント施設事業の株式会社プレジャーキャスト、アミューズメント機器開発の株式会社バンダイナムコアミューズメントラボを合わせたグループ3社の本社が入居しており、年間で消費する電力量は約879,591kWh、CO2換算で約373.8t-CO2となっています(2020年度実績)。

今回の再生可能エネルギー導入は、住友不動産株式会社さまの協力のもと、東京電力エナジーパートナーさまの実質CO2フリー電力料金プランを活用し、全館で使用する電力を実質的に再生可能エネルギー由来の電力に切り替えることで約140トン分の二酸化炭素を実質ゼロにするものです。

バンダイナムコグループでは、「サステナビリティ方針」を制定するとともに、脱炭素化に向けた取り組みとして、2050年までに自社拠点(社屋、自社工場、直営アミューズメント施設等)におけるエネルギー由来の二酸化炭素排出量を実質ゼロとする中長期目標を掲げています。

当社はバンダイナムコグループの約7割の二酸化炭素を排出するアミューズメント事業を行う中で、マテリアリティ(重要項目)の一つである「地球環境との共生」の脱炭素化の推進において重要な役割を担っています。

既に「ガシャポンのデパート」など、電力使用を抑えた施設開発のほか、一部アミューズメント施設やグループの施設では再生可能エネルギーの導入を進めていますが、オフィス拠点を完全再生エネルギー化するのは今回が初の取り組みです。

バンダイナムコグループでは、今後も目標の達成に向けて各事業拠点の脱炭素化を進めていきます。